

EⅦ論文

日本語構造伝達文法の中国語への適用
－兼語句－

蔣 家義

要 旨

「兼語」とは同一の文において、ある動詞に対しては目的語として機能し、別の動詞に対しては主語として機能するという1つの名詞のことである。日本語構造伝達文法の構造図示法を使うと、そのことがわかりやすく示せる。本論文では、構造を図示しつつ、形式的には同一である「兼語」が、意味的には多様な様相を呈することを述べる。すなわち、兼語句(兼語文)を、意味的に4種類のものとして分類し、それぞれの兼語句について例を示して説明する。[1]使役・許容の兼語句、[2]心理の兼語句、[3]認定・呼称の兼語句、[4]描写・説明の兼語句。

キーワード: 兼語, 兼語句, 構造, 格フレーム, 深層格

1 はじめに

本稿は、「日本語構造伝達文法の中国語への適用」という研究の一環である。前稿「中国語の句の意味構造」(蔣2018)では、研究の目的、考察の対象、日本語構造伝達文法の基礎、主述句、述目句、結果述補句を論じた。前稿に続いて、本稿では、兼語句について述べる。

本稿2節で、「兼語句」の名称について述べる。

3節では、兼語句の例を4種類、例[1]～[4]として挙げる。

[1]……使役・許容の兼語句

[2]……心理の兼語句

[3]……認定・呼称の兼語句

[4]……描写・説明の兼語句

4節で、この4種類について、1つずつ、それぞれの特徴を述べる。使用される動詞の特徴も挙げる。

5節で、兼語句の意味構造を述べる。兼語句は形式上では同じでも、意味的には違いが大きい。[1]～[4]の意味について述べる。

6節で、まとめる。

2 「兼語」という名称

兼語の使用されている兼語句は、次のような形式の句である。

形式1 “動詞性語句X+名詞性語句B+動詞性語句Y”

形式2 “動詞性語句X+名詞性語句B+動詞性語句Y+名詞性語句C”、

形式3 “動詞性語句X+名詞性語句B+形容詞性語句Y”

表1

形式1の構造図示	名詞性語句B
動詞性語句X	動詞性語句Y
形式2の構造図示	名詞性語句B
動詞性語句X	動詞性語句Y
	名詞性語句C
形式3の構造図示	名詞性語句B
動詞性語句X	形容詞性語句Y

形式1～3の “動詞性語句X+名詞性語句B” の部分は、“述語+目的語” の関係にある。

形式1, 2の “名詞性語句B+動詞性語句Y” の部分と

形式3の “名詞性語句B+形容詞性語句Y” の部分は、“主語+述語” の関係にある。

つまり、兼語句は、述目句と主述句で構成されている。

述目句 …… “述語+目的語” (“動詞性語句X+名詞性語句B”)

主述句 …… “主語+述語” (“名詞性語句B+動詞性・形容詞性語句Y”)

「兼語」というのは名詞性語句Bのことである。

名詞性語句Bは “動詞性語句X+名詞性語句B” においては**目的語**である。

“名詞性語句B+動詞性・形容詞性語句Y” においては**主語**である。

すなわち、名詞性語句Bは、目的語と主語の2つの役割を兼ねており、ここから

「兼語」という名称を持つようになっていく。

3 兼語句の例

下例は、形式2に従う例であるが、“我们”、“你”、“他”、“人”が「兼語」である。兼語(名詞性語句B)は、兼語句を構成する述目句の目的語となっている。

“叫+我们”、“佩服+你”、“选+他”、“有+人”

これが同時に主述句の主語を兼ねている。

“我们+写+一篇作文”、“你+有+耐心”、“他+当+班长”、“人+敲+门”

表2 兼語句の例 形式2での例

<p>[1] 叫 我们 写 一篇作文 (私たちに作文を書かせる) 使役を表す <small>させる 私たち 書く 1篇 作文</small></p> <p>叫 (動詞性語句X)</p>	<p>我们 (名詞性語句B)</p> <p>写 (動詞性語句Y)</p>	<p>一篇作文 (名詞性語句C)</p>
<p>[2] 佩服 你 有 耐心 (あなたの辛抱強さに感心する) 心理を表す <small>感心する あなた 持つ 辛抱</small></p> <p>佩服 (動詞性語句X)</p>	<p>你 (名詞性語句B)</p> <p>有 (動詞性語句Y)</p>	<p>耐心 (名詞性語句C)</p>
<p>[3] 选 他 当 班长 (彼を班長に選ぶ) 認定を表す <small>選ぶ 彼 担当する 班長</small></p> <p>选 (動詞性語句X)</p>	<p>他 (名詞性語句B)</p> <p>当 (動詞性語句Y)</p>	<p>班长 (名詞性語句C)</p>
<p>[4] 有 人 敲 门 (だれかがドアをたたいている) 説明を表す <small>いる 人 たたく ドア</small></p> <p>有 (動詞性語句X)</p>	<p>人 (名詞性語句B)</p> <p>敲 (動詞性語句Y)</p>	<p>门 (名詞性語句C)</p>

[1]～[4]は同じく兼語句であるが、意味は大きく異なる。

- [1] 使役を表す。……使役・許容の兼語句
- [2] 心理を表す。……心理の兼語句
- [3] 認定を表す。……認定・呼称の兼語句
- [4] 説明を表す。……描写・説明の兼語句

次にこの[1]~[4]を1つずつ検討してみる。

4 兼語句4種類のそれぞれの特徴

4 [1] 使役・許容の兼語句

使役・許容の兼語句では、名詞性語句B（兼語）のさす実体が動詞性語句Yの表す事態に関わることが引き起こされる。

[1] 1 動詞性語句X + 名詞性語句B + 動詞性語句Y + 名詞性語句C （形式2）

a 促使 他 改变 了 主意
促す 彼 変える た 考え方 （彼の考え方を変えさせた）

[1] 2 動詞性語句X + 名詞性語句B + 動詞性語句Y （形式1）

b 强迫 帝王 退位
強制する 帝王 退位する （帝王に退位を無理強いする）

c 批准 他们 出国
許可する 彼ら 出国する （彼らが出国することを許可する）

この種の兼語句では、動詞性語句Xの中核となる動詞は、以下のような使役・許容の意味素性を持つものである（劉・潘・故2001:709, 陸2006:418-419）。

表3 [1] 使役・許容の兼語句を作る動詞

“安排, 组织”（手配する）	“逼, 迫使, 强迫”（強制する）
“促使”（促す）	“催, 催促”（催促する）
“打发, 派”（派遣する）	“答应”（承諾する）
“吩咐, 招呼”（言いつける）	“供”（供する）
“鼓动”（奮い立たせる）	“鼓励”（励ます）
“号召”（呼びかける）	“叫, 令, 让, 使, 使得”（…させる）
“禁止”（禁止する）	“领导”（指導する）
“命令”（命じる）	“批准, 许, 允许, 准, 准许”（許可する）
“启发”（啓発する）	“请, 请求, 托”（頼む）
“劝, 劝说”（説得する）	“容许”（許容する）
“怂恿”（唆す）	“委托”（依頼する）
“要, 要求”（求める）	“邀请”（招く）
“引, 引导”（導く）	“约”（誘う）
“召集”（召集する）	“指定”（指定する）
“指示”（指示する）	“阻止”（阻止する）

4 [2] 心理の兼語句

心理の兼語句では、名詞性語句Bのさす実体が動詞性・形容詞性語句Yの表す事態に関わることに對する、心の働きが述べられる。

[2] 1 動詞性語句X + 名詞性語句B + 形容詞性語句Y (形式3)

- a 爱 他 聰明
好きだ 彼 賢い (彼は賢いところが好きだ)
- b 怪 他 糊涂
とがめる 彼 間抜けだ (彼が間抜けだったことをとがめる)

[2] 2 動詞性語句X + 名詞性語句B + 動詞性語句Y + 名詞性語句C (形式2)

- c 称赞 他 有 爱心
褒める 彼 持つ 思いやり (彼が思いやりを持っていると褒める)

この種の兼語句では、動詞性語句Xの中核となる動詞は、以下のような心理の意味素性を持つものである(劉・潘・故2001:710, 陸2006:420)。

表4 [2] 心理の兼語句を作る動詞

“爱, 喜欢”(好きだ)	“嘲笑, 讥笑, 笑话”(あざ笑う)
“称赞, 夸, 夸奖, 赞扬”(褒める)	“烦, 讨厌, 嫌”(嫌いだ)
“怪, 骂, 责备, 责怪”(とがめる)	“恨”(憎む), “埋怨”(恨む)
“佩服, 钦佩”(感心する)	“羡慕”(羨む)
“欣赏”(よしと認める)	“原谅”(許す)

4 [3] 認定・呼称の兼語句

認定・呼称の兼語句では、名詞性語句Bのさす実体が名詞性語句Cの表す職や地位に就いたり、ある名前や名称と呼ばれたりする。

[3] 1 動詞性語句X + 名詞性語句B + 動詞性語句Y + 名詞性語句C (形式2)

- a 选 他 做 代表
選ぶ 彼 担当する 代表 (彼を代表に選ぶ)
- b 拜 王 先生 为 师傅
弟子入りする 王 先生 する 師匠 (王先生に弟子入りする)
- c 称 他 为 “活 词典”
呼ぶ 彼 する 生きている 辞典 (彼を生き字引と呼ぶ)

動詞性語句Xの中核となる動詞は、下表(1)の認定の意味素性を持つものと、(2)の呼称の意味素性を持つものである(劉・潘・故2001:709, 陸2006:419)。そして、動詞性語句Yの中核となる動詞は、(3)の具体的な意味内容の希薄なものに限られる。

表5 [3] 認定・呼称の兼語句を作る動詞

(1)	“拜”(弟子入りする)	“认, 认为”(認める)
	“推荐”(推薦する)	“推选, 选, 选举”(選ぶ)
(2)	“称, 叫”(呼ぶ)	“骂”(罵る)
(3)	“当, 做”(担当する)	“为”(…とする) など

4 [4] 描写・説明の兼語句

描写・説明の兼語句（例：表2中の[4]，下例a,b,c）では，動詞“有”（ある/いる）を中核とする動詞性語句“有”は，名詞性語句Bのさす実体の存在を提示し，動詞性語句Yは，それについて描写・説明する。

[4] 1 動詞性語句X + 名詞性語句B + 動詞性語句Y + 名詞性語句C

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|----|---|---|---|---|---|----------------------|
| a | 有 | 人 | 落 | 下 | 一 | 件 | 上 | 衣 | |
| | い | る | 人 | 置 | き | 忘 | れ | る | 1枚 上着 (だれかが上着を置き忘れた) |
| b | 有 | 人 | 叫 | 你 | | | | | |
| | い | る | 人 | 呼 | ぶ | あ | な | た | (だれかがあなたを呼んでいる) |
| c | 有 | 个 | 诗 | 人 | 叫 | 贾 | 岛 | | |
| | い | る | 1人 | 诗 | 人 | 言 | う | 贾 | 岛 (贾島と言う詩人がいた) |

5 兼語句の意味構造

[1]～[4]は同じ兼語句ではあっても意味的な違いは大きい。本節ではこの4種類の兼語句の意味構造について考えてみる。

形式1～3に，主語として機能する「名詞性語句A」を加え，形式1'～形式3'とする。

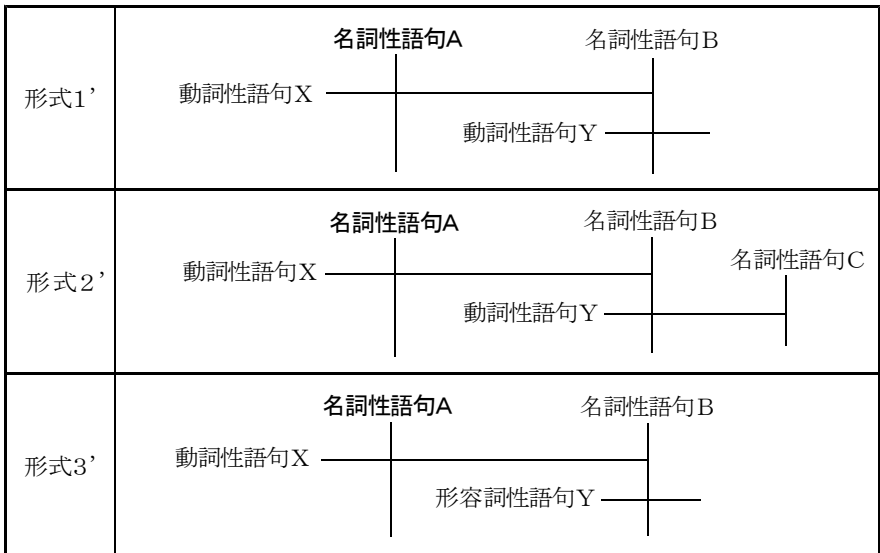
形式1' “名詞性語句A + 動詞性語句X + 名詞性語句B + 動詞性語句Y”

形式2' “名詞性語句A + 動詞性語句X + 名詞性語句B + 動詞性語句Y + 名詞性語句C”

形式3' “名詞性語句A + 動詞性語句X + 名詞性語句B + 形容詞性語句Y”

名詞性語句Aに対して兼語句(下線部)が全体で1つの述語として機能するものとして扱う。したがって，兼語句の意味構造を，兼語句を含む主述句として考察する。

表6 形式1'～形式3'の図



5 [1] 使役・許容の兼語句の意味構造

まずは、使役・許容の兼語句を含む主述句……[主述句1]と表示する……を例として、使役・許容の兼語句の意味構造について考えてみる。

以下においては、次のような表示法をとる。

動詞性語句X，動詞性語句Yの表す事態 …… 『X』、『Y』と表示。

名詞性語句A～名詞性語句Cの表すものを …… 「A」、「B」、「C」と表示。

[主述句1]

〈文1〉 名詞性語句A + 動詞性語句X + 名詞性語句B + 動詞性語句Y + 名詞性語句C

〈文1例〉 学校 派 我们班 参加 演讲比赛
学校 派遣する 私たち クラス 参加する スピーチ コンテスト
 (学校が私たちのクラスをスピーチコンテストに参加させる)

ここでは、「学校」(「A」と、「我们班」(「B」)が、それぞれ、事態「派」(『X』)に対して主体と客体として関わっている。

動詞“派”は格フレーム“施事 + V + 受事 (V = 二項他動詞)”を持っているので、名詞性語句“学校”と“我们班”の深層格は、それぞれ施事と受事となっている。

施事 = 自発的な動作，行為，状態の主体である。

受事 = 自発的な動作，行為に関わる客体である。

一方、『参加』に「我们班」と「演讲比赛」がそれぞれ主体と客体として関わっている。動詞“参加”が格フレーム“施事 + V + 受事 (V = 二項他動詞)”を持っているので、名詞性語句“我们班”と“演讲比赛”の深層格は、それぞれ施事と受事となっている。

また、「我们班」が『参加』に関わることは、「学校」が『派』に関わることによって引き起こすので、「学校」は、客体として『参加』にも関わっている。『参加』に対する名詞性語句“学校”の深層格は、原因であると考えられる。

原因 = 事態を引き起こす原因である。

つまり、〈文1例〉は次のような意味構造を持っている。構造は下に図示する。

“_{施事}「学校」－_{受事}「派」－_{受事}「我们班」；_{施事}「我们班」－_{受事}「参加」－_{原因}「学校」”
 (主体を『X』や『Y』の前に、客体を『X』や『Y』の後に配置する。)

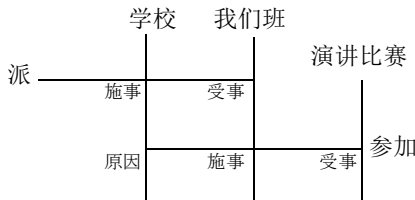


図1 〈文2例〉の意味構造

“^{施事}「学校」-『派』-^{受事}「我们班」; ^{施事}「我们班」-『参加』-^{受事}「演讲比赛」-^{原因}「学校」”
 この〈文例1〉の意味構造は、本来無関係な①と②が合成されたものである。

“①^{施事}「学校」-『派』-^{受事}「我们班」”

“②^{施事}「我们班」-『参加』-^{受事}「演讲比赛」”

過程 I では、②の「我们班」が『参加』に関わることを、①の「学校」が引き起こすので、「学校」が原因となる。II では、①と②の「我们班」が1つに結合される。

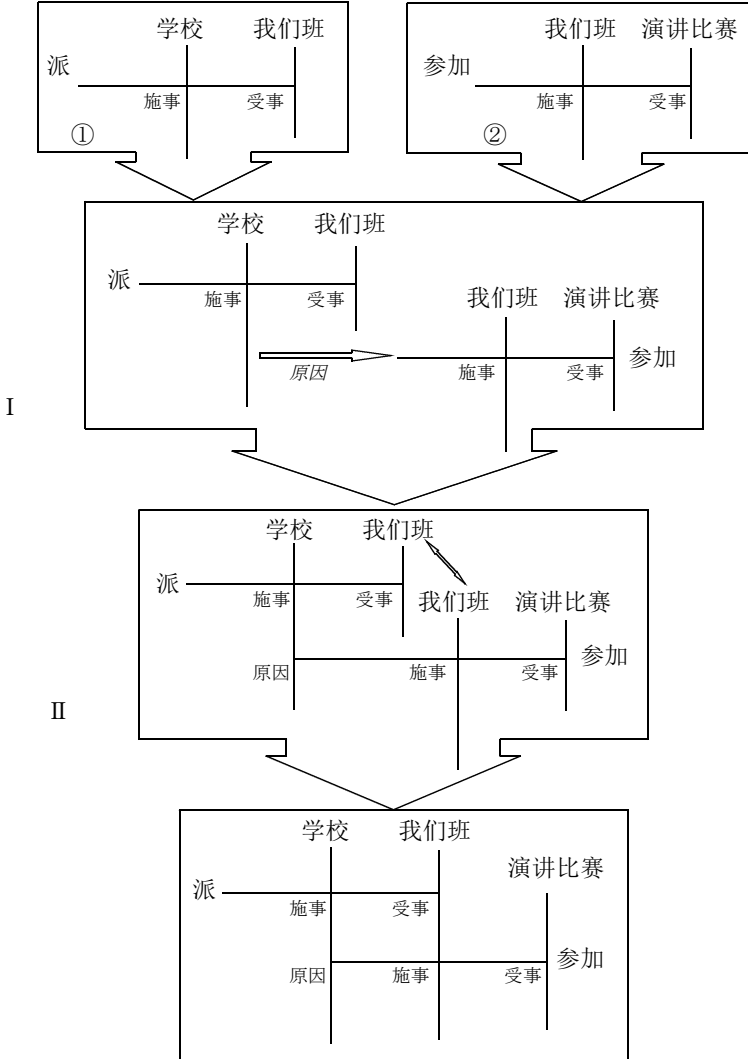


図2 〈文1例〉の意味構造の合成

以上により、〈文1〉のような使役・許容の兼語句を含む主述句の意味構造は、

“「A」-『X』-「B」;「B」-『Y』(-「C」) -原因「A」”

と整理できる（ここでは、動詞の格フレームによって変わる名詞性語句の深層格は示さない。また、『Y』が客体を伴わないことがあるので、「C」に括弧をつけた）。

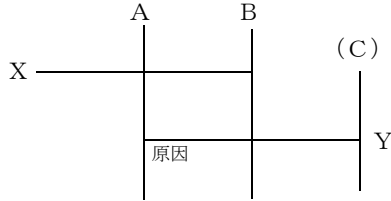


図3 使役・許容の兼語句(を含む主述句)の意味構造

これは、そのまま使役・許容の兼語句そのものの意味構造となる。なぜならば、使役・許容の兼語句では、名詞性語句Aが表に現れていないが、「A」が『X』に関わっており、そして原因として『Y』にも関わっているからである。

5 [2] 心理の兼語句の意味構造

次に主述句2を例として、心理の兼語句の意味構造について考えてみる。

[主述句2]

〈文2〉 名詞性語句A + 動詞性語句X + 名詞性語句B + 動詞性語句Y + 名詞性語句C

〈文2例〉 大家 夸奖 他 做了 一件好事
 みんな 褒める 彼 する た 1つ よいこと
 (みんなが彼がよいことをしたと褒める)

〈文2例〉では、『做』に「他」と「一件好事」がそれぞれ主体と客体として関わっている。動詞“做”が格フレーム“施事+V+受事 (V=二項他動詞)”を持っているので、名詞性語句“他”と“一件好事”の深層格は、それぞれ施事と受事となっている。

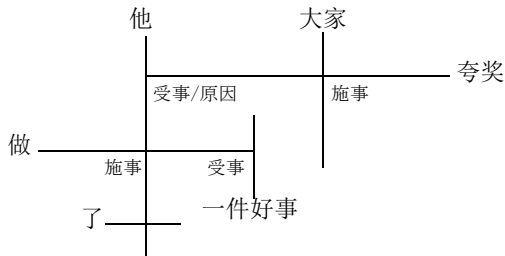


図4 〈文2例〉の意味構造

一方、『夸奖』に「大家」と「他」がそれぞれ主体と客体として関わっている。

動詞“夸奖”が格フレーム“施事+V+受事 (V=二項他動詞)”を持っているので、名詞性語句“大家”と“他”の深層格は、それぞれ施事と受事となっている。

また、「大家」が『夸奖』に関わるわけは、「他」が何らかの褒められる事態（ここで

は『做（了一件好事）』に関わるからである。つまり、「大家」が『夸奖』に関わることは、「他」が『做』に関わることで引き起こすのである。したがって、『夸奖』に対する名詞性語句“他”の深層格は、受事だけでなく、原因でもありと考えられる。

そこで、〈文2例〉は次の意味構造を持つ。

“施事「他」-『做』-受事「一件好事」-局面了；施事「大家」-『夸奖』-受事/原因「他」”

これは、次の2つが合成されたものである。「他」が同一なので、1つに結合される。

“①施事「他」-『做』-受事「一件好事」-局面了”

“②施事「大家」-『夸奖』-受事/原因「他」”

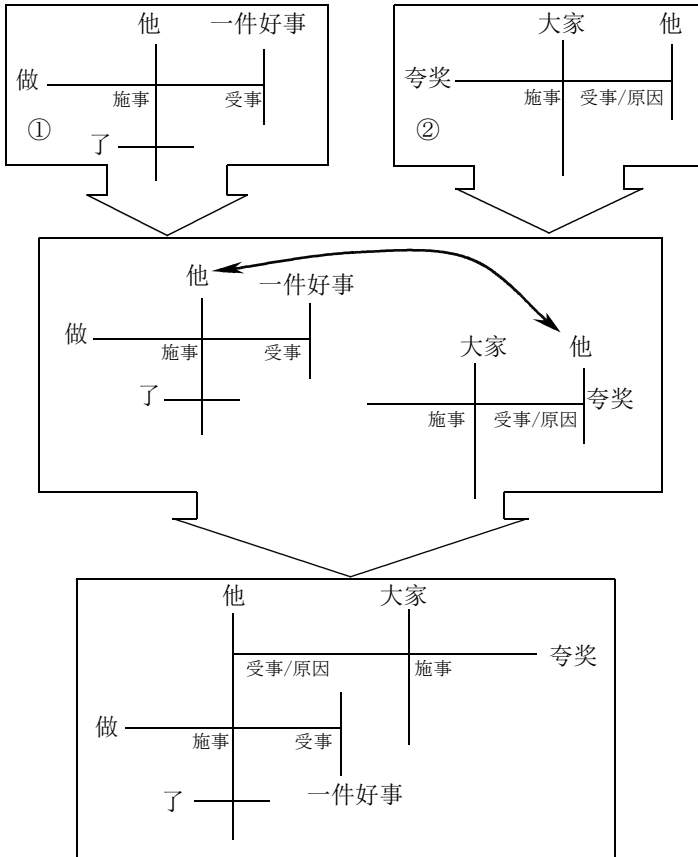


図5 〈文2例〉の意味構造の合成

以上から、〈文2〉のような心理の兼語句を含む主述句の意味構造をこう整理する。

“「B」-『Y』(-「C」) ; 「A」-『X』-原因「B」”

(この意味構造では、動詞や形容詞の格フレームによって変わる名詞性語句の深層格は示さない。また、『Y』が客体を伴わないことがあるので、「C」に括弧をつけた。

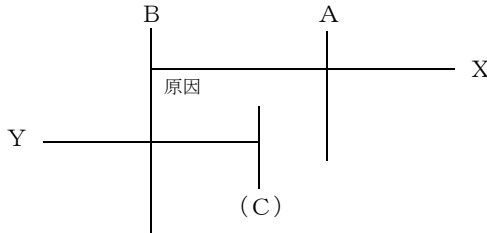


図6 心理の兼語句(を含む主述句)の意味構造

これは、そのまま心理の兼語句そのものの意味構造となる。心理の兼語句では、名詞性語句Aが表に現れていないが、「A」は『X』に関わる。

5 [3] 認定・呼称の兼語句の意味構造

次に主述句3を例として、心理の兼語句の意味構造について考えてみる。

[主述句3]

〈文3〉 名詞性語句A + 動詞性語句X + 名詞性語句B + 動詞性語句Y + 名詞性語句C

〈文3例〉 同学们 选 他 当 班长
級友たち 選ぶ 彼 担当する 学級委員
 (級友たちが彼を学級委員に選ぶ)

〈文3例〉では、『选』に「同学们」と「他」がそれぞれ主体と客体として関わっている。動詞“选”は格フレーム“施事+V+受事または結果(V=二項他動詞)”を持つので、ここでの名詞性語句“同学们”と“他”の深層格は、それぞれ施事と受事である。

結果=生じたり、引き起こしたり、達成したりする結果である。

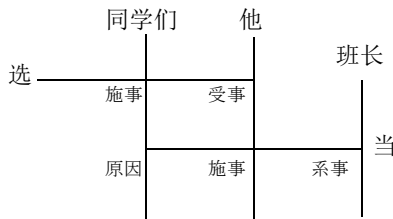


図7 〈文3例〉の意味構造

一方、動詞『当』に「他」と「班长」がそれぞれ主体と客体として関わっている。“当”が格フレーム“施事+V+系事(V=二項自動詞)”を持っているので、名詞性語句“他”と“班长”の深層格は、それぞれ施事と系事となっている。

系事=主体の類別、身分、役割である。

また、「他」が『当』に関わることは、「同学们」が『选』に関わることによって引き起

こされるので、「同学们」は、客体として『当』にも関わっている。名詞性語句“同学们”の『当』に対する深層格は、原因である。

このように考えると、〈文3例〉の意味構造はこのようになる。

“^{施事}「同学们」-『选』-^{受事}「他」; ^{施事}「他」-『当』-^{系事}「班长」-^{原因}「同学们」”

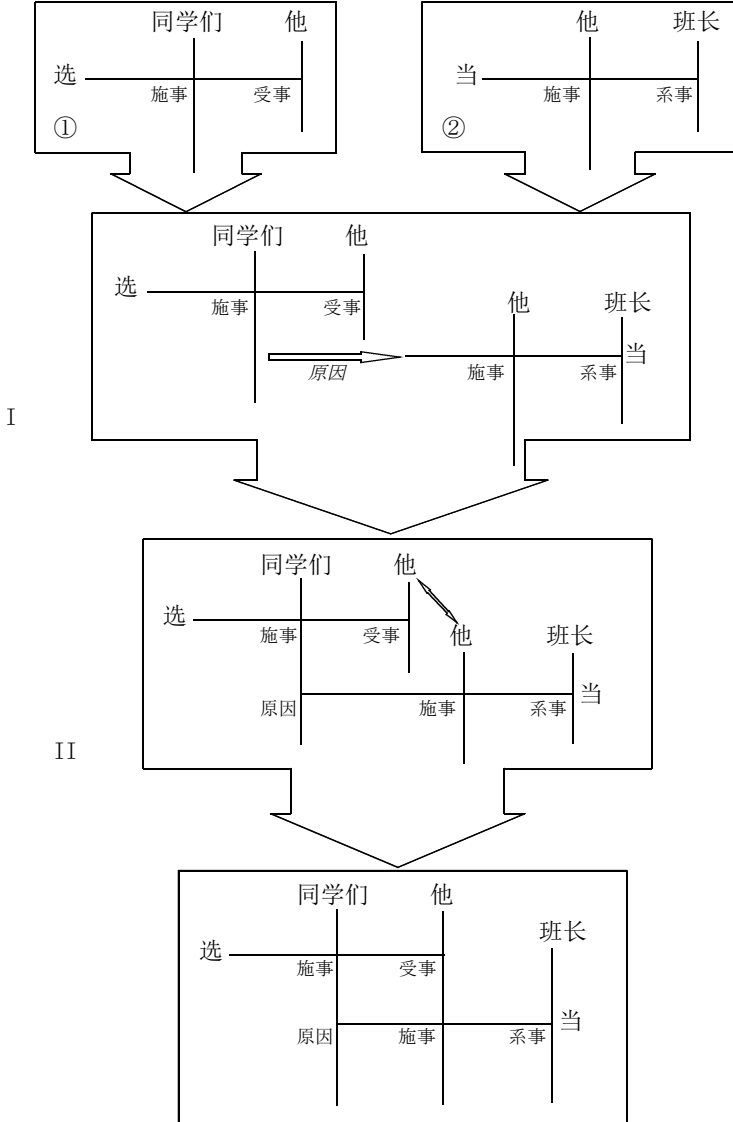


図8 〈文3例〉の意味構造の合成

この〈文3例〉の意味構造は、①と②が合成されたものである。

“①_{施事}「同学们」－『选』－_{受事}「他」”

“②_{施事}「他」－『当』－_{系事}「班长」”

合成の過程Iでは、②の「他」が『当』に関わることを、①の「同学们」が引き起こすので、「同学们」が原因として『当』に接するようになる。IIでは、①と②の「他」が同一人物なので、1つに結合される。

以上により、〈文3〉のような認定・呼称の兼語句を含む主述句の意味構造は、

“「A」－『X』－「B」;「B」－『Y』－「C」－_{原因}「A」”

と整理できる（ここでは、動詞の格フレームによって変わる名詞性語句の深層格は示さない。また、『Y』がしばしば客体を伴うので、「C」に括弧はつけない）。

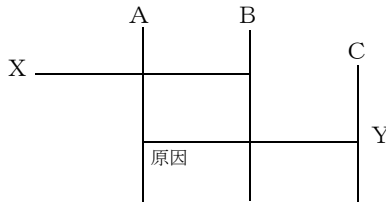


図9 認定・呼称の兼語句(を含む主述句)の意味構造

これもそのまま認定・呼称の兼語句そのものの意味構造となる。認定・呼称の兼語句では、名詞性語句Aが表に現れていないが、「A」が『X』に関わっており、そして原因として『Y』にも関わっているからである。

5 [4] 描写・説明の兼語句の意味構造

最後に、主述句4を例として、描写・説明の兼語句の意味構造について考えてみる。

[主述句4]

〈文4〉 名詞性語句A + 動詞性語句X + 名詞性語句B + 動詞性語句Y

〈文4例〉 车间 有 人 病 了

作業場 いる 人 病気になる た

(作業場でだれかが病気になった)

〈文4例〉では、動詞“有”が格フレーム“時間または処所 + V + 当事 (V = 二項内動詞)”を持つので、名詞性語句“车间”と“人”の深層格は、処所と当事となっている。

時間 = 事態の起こる時点、或いは継続する期間である。

処所 = 事態の起こる場所、状況、及び経過域である。

当事を付与される名詞性語句のさす実体は、時間や処所を付与される名詞性語句のさす実体よりも認識されやすい。〈文4例〉においては、“人”が当事を付与されるので、“车间”のさす実体は処所を付与される客体として、『有』に関わることになる。

一方、『病』に対しては、“人”は主体として関わっている。動詞“病”が格フレーム“当事 + V (V = 一項内動詞)”を持つので、名詞性語句“人”の深層格は当事となる。

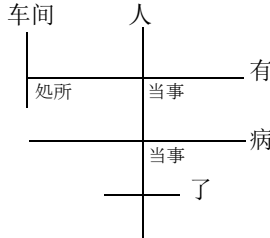


図10 〈文4例〉の意味構造

つまり、〈文4例〉は、次の意味構造を持っている。

“当事「人」-『有』-処所「车间」; 当事「人」-『病』-局面”

以上により、〈文4〉のような描写・説明の兼語句を含む主述句の意味構造は、

“当事「B」-『有』-時間・処所「A」; 「B」-『Y』(-「C」)”

と整理することができる（この意味構造では、動詞の格フレームによって変わる名詞性語句の深層格は示さない。また、『Y』が客体を伴わないこともあるので、「C」に括弧をつけた）。

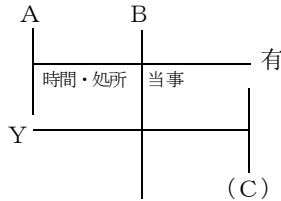


図11 描写・説明の兼語句(を含む主述句)の意味構造

これは、そのまま描写・説明の兼語句そのものの意味構造となる。描写・説明の兼語句では、名詞性語句Aが表に現れていないが、「A」が『有』に関わっているからである。

6 まとめ——4種類の兼語句の意味的な違い

以上、[1]使役・許容、[2]心理、[3]認定・呼称、[4]描写・説明の、4種類の兼語句を概観したうえで、それぞれの意味構造を見てきた。これらの内容は、表7のようにまとめられる。

「兼語句」という概念が提起されたのは、句の中の名詞性語句Bが一般的に目的語と主語の2つの役割を兼ねていると認識されたからである。

前の述目句 “動詞性語句X+名詞性語句B”の目的語

後の主述句 “名詞性語句B+動詞性・形容詞性語句Y”の主語

形式的な観点からは、[1]～[3]の兼語句は同じであるが、意味的な観点からは、動詞性語句Xの中核となる動詞の意味的な性質によって、4種類に分けられる。それだ

けでなく、これら4種類の兼語句の間の違いも顕著である。

表7 兼語句の概観, 意味構造および図示

<p>[1] 使役・許容の兼語句 「B」が『Y』に関わることが、引き起こされる</p> <p>意味構造: 「A」-『X』-「B」; 「B」-『Y』 (-「C」) -原因「A」</p>	
<p>動詞性語句Xの中核となる動詞</p> <p>“安排, 组织”(手配する)</p> <p>“逼, 迫使, 强迫”(強制する)</p> <p>“促使”(促す)</p> <p>など, 使役・許容の意味素性を持つ動詞</p>	
<p>[2] 心理の兼語句 「B」が『Y』に関わることに對する, 心の働きが述べられる</p> <p>意味構造: 「B」-『Y』 (-「C」); 「A」-『X』 -原因「B」</p>	
<p>動詞性語句Xの中核となる動詞</p> <p>“爱, 喜欢”(好きだ)</p> <p>“嘲笑, 讥笑, 笑话”(あざ笑う)</p> <p>など, 心理の意味素性を持つ動詞</p>	
<p>[3] 認定・呼称の兼語句 「B」が名詞性語句Cの表す職や地位に就いたり, ある名前や名称で呼ばれたりする</p> <p>意味構造: 「A」-『X』-「B」; 「B」-『Y』-「C」 -原因「A」</p>	
<p>動詞性語句Xの中核となる動詞</p> <p>“拜”(弟子入りする)</p> <p>“认, 认为”(認める)</p> <p>“称, 叫”(呼ぶ)</p> <p>など, 認定や呼称の意味素性を持つ動詞</p>	
<p>[4] 描写・説明の兼語句 動詞性語句“有”は, 「B」の存在を提示し, 動詞性語句Yがそれについて描写・説明する</p> <p>意味構造: 当事「B」-『有』-時間・処所「A」; 「B」-『Y』 (-「C」)</p>	
<p>動詞性語句Xの中核となる動詞</p> <p>“有”(ある, いる)</p>	

(1) 深層格

『X』に対する名詞性語句B(「兼語」)の深層格は、一様ではない。

[1] 使役・許容の兼語句と、[3] 認定・呼称の兼語句では一定ではない。

[2] 心理の兼語句では、Bの深層格(の1つ)は原因である。

[4] 描写・説明の兼語句では、Bの深層格は当事である。

(2) 因果関係

[1] 使役・許容の兼語句と、[3] 認定・呼称の兼語句では

「B」が『Y』に関わることは、「A」が『X』に関わることで引き起こされる。
つまり、『X』が『Y』の原因となる。『X』のほうが時間的に先行する。

[2] 心理の兼語句では逆に、

「A」が『X』に関わることは、「B」が『Y』に関わることで引き起こされる。
つまり、『Y』が『X』の原因となる。『Y』のほうが時間的に先行する。

(3) 動詞の制限

[1] 使役・許容の兼語句では動詞性語句Yに現れる動詞には特に制限はない。

[3] 認定・呼称の兼語句では動詞性語句Yに現れる動詞は制限がある。

“当，做”(担当する)，“为”(…とする)などに限られている。

以上のように、一口に兼語句といっても、極めて異なる様相を呈している。これらの違いはいずれも、意味的なものである。「兼語句」という概念にまとめられたのは、形式のみに焦点が当てられたからであろう。

兼語句、とりわけ当該の4種類の兼語句の、より充実な解明にとっては、意味的な観点からの更なる検討が必要不可欠であろう。これは、今後の課題としておきたい。

主要参考文献

蒋家義 (2018) 「中国語の句の意味構造」 今泉喜一・関口美緒・木村泰介・孫偉・

蒋家義 『日本語・中国語・印欧語—日本語構造伝達文法・発展D—』 揺籃社

刘月华, 潘文娛, 故韡 (2001) 《实用现代汉语语法(增订本)》 商务印书馆

陆庆和 (2006) 《实用对外汉语教学语法》 北京大学出版社

齊魯工業大学外国語学院

(所属先を変更した)

[研究者紹介]

『日本語・中国語・印欧語—日本語構造伝達文法D—』 p.154 に記載されている。